

＜学校経営方針の重点＞
 1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進
 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価		分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性						
				教職員	保護者			評価	コメント							
1 学力の向上	基礎・基本を大切に、分かる授業を実現する。	言語活動を重視して基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、自ら学ぶ力を育てる。	言語活動を重視した授業を日常的に実施し、思考力・判断力・表現力を育てる。	A	0.0	31.3	B 言語活動を重視した授業を日常的に実施している。成果が上っている。	今年度の成果を基に引き続き言語活動を重視した授業を行っていく。	A	保護者の評価は高いので、先生たちの目指している言語活動を重視した授業を引き続きお願いします。	コミュニケーション力を付ける指導法を校内研究で行ってきたので、それを生かし、これからも言語活動を重視した授業に取り組んでいく。					
				B	89.5	64.2										
				C	10.5	4.0										
				D	0.0	0.5										
			重要教科を国語と算数に定め、授業改善プランを活用し、基礎学力と学び合う力を育て、より広い応用力を付ける取組を実践する。	A	0.0	35.1	B 全国学力調査を見ると基礎学力は育ててきているが応用力が育っていない。	日常的に課題追究型の授業を展開することで応用力を付けていく。	B	応用力が育つように授業を続けていってください。		引き続き日常的に課題追究型の授業を展開することで応用力を付けていく。				
				B	64.7	59.9										
				C	35.3	5.0										
				D	0.0	0.0										
			学年の発達段階を考慮した学習課題(宿題)を出し、学ぶ意欲を高めるとともに家庭学習の習慣化を図る。	A	43.8	39.1	B 宿題への取り組み方を考えるなど前向きに取り組んでいる児童。家庭がほとんどである。但し、サポートが必要な児童、家庭があることも事実なので、家庭への声掛けを続けていく。学年によって宿題の量や質に差がある。	家庭学習の仕方や質について折にふれて指導する。(保護者会等も活用し、保護者への啓発も行う。)家庭学習の内容や量について、教員間で情報交換を行い、学年によって極端な差が出ないようにする。	B	学年によって宿題(内容・量)の差が出ないようにしていってください。			引き続き学校全体で家庭学習の習慣化を図り保護者会等で青梅市の家庭学習のすすめを活用し啓発を行う。また、家庭学習の質を上げるために予習・復習の重要性について学級活動などで指導していく。学年によって極端に宿題の差が出ないよう教員間での情報交換を行う。			
				B	37.5	49.0										
				C	18.8	10.9										
				D	0.0	1.0										
2 心の教育	思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する。	人権尊重の精神に則り人権教育の実践の充実とともに、基本的な生活習慣を養い、社会規範遵守の意識を育てる。	強化月間を設け、校内外の人に気持ちの良い挨拶やていねいな言葉遣いをできるようにする。	A	15.8	25.2	B 挨拶は、校内では言えるようになってきた。しかし、旗振りのお母さんが挨拶をしても反応がないなど地域ではまだ課題がある。職員入室の際の言葉遣いは、良くなった。	旗振りの方や駐在所の方、挨拶してくれた方など、「地域の方」を具体的に例を示し指導し、挨拶をするよう指導する。言葉遣いは、その都度、よりよい話し方を指導する。教員が丁寧な話し方のモデルを示すことで定着を図る。	B	自分から挨拶や正しい言葉遣いができるように家庭との連携も続けていってほしい。普段から挨拶を続けていくことを家庭と一緒にすすめていく。挨拶できている子をほめて、伸ばしていってほしい。	挨拶や正しい言葉遣いは、年間を通して児童に働きかけ、習慣化を図る。家庭にも保護者会や学校便り等で呼びかけ、協力をお願いする。					
				B	78.9	59.4										
				C	5.3	14.9										
				D	0.0	0.5										
			生活指導月目標を基に共通実践を行い、きまり遵守、挨拶・返事などきちんとできるように規範意識を育む。	A	5.0	30.8	B きまりを守る意識はあるが、行動が伴わない。廊下歩行は、指導の継続が必要。チャイム着席は、休み時間の後の戻りが遅く、3・5時間目の開始が遅れることがある。階段から飛び降りるなど危険な遊びをする児童がいる。	曲がり角に「STOP」の表示をして、廊下歩行の注意喚起をする。3・5時間目開始のチャイムを鳴らし、授業開始時刻をはっきりさせる。危険な遊びは、生活指導夕会で職員に周知し、学級指導で指導、児童の行動を見守る。	B	危険なことにならないように、様子をよくみて指導してほしい。		生活指導目標を基に、全校共通した実践を行い、規範意識を育てる。課題に対して、迅速かつ的確な指導を心がける。自分の身は自分で守ることができる児童を育成するため、安全指導のさらなる充実を目指す。改善策にあるような具体的な手立てを工夫していく。				
				B	75.0	53.7										
				C	20.0	14.9										
				D	0.0	0.5										
			日々の道徳の授業の目標を明確にし、道徳の時間を工夫し、子供自身が自らを見つめ直すことができるようにする。	A	14.3	33.2	B 道徳の時間に使ったワークシート等を随時持ち帰ることが少ないので、家庭には状況が伝わりにくい面もある。	引き続き、めあてを明確にした授業を実施し、道徳の授業について家庭への啓発を進めていく。折を見てワークシートのファイルを持ち帰らせる機会を設ける。	B	授業の様子が分かるように、ワークシートの持ち帰りなどがあるようにしてほしい。保護者にも内容が伝わるようにしてほしい。			「特別の教科道徳」になることに向けて、学期ごとにワークシートの持ち帰りを図り、授業の様子が分かるようにする。			
				B	85.7	57.4										
				C	0.0	8.4										
				D	0.0	1.0										
3 健やかな体	心身ともに健康な体を育成する。	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身に健康的な体を育てる。	自らの生活習慣に関心をもたせ、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	5.3	42.6	B 大多数の児童が、朝食をしっかりと食べてきている。就寝時間について、改善された児童がいる一方で、就寝時間が遅いことで生活リズムを崩している児童もいる。	各学級で、生活リズムの大切さについて指導する。保健指導も引き続き行っていく。また、保護者会や便りで保護者への協力を呼びかける。	B	学校で指導を続けてもらうとともに、保護者に、生活リズムが乱れないように呼びかけを続けていってほしい。	各学級で、生活リズムの大切さについて引き続き指導していく。保健指導も計画的に行っていく。また、保護者会や便りで保護者への協力を呼びかける。					
				B	78.9	51.0										
				C	15.8	6.4										
				D	0.0	0.0										
			食の教育全体計画に基づき、食習慣の重要性について指導し、意識を高める。また、給食時には、よく噛んで食べられるよう指導する。	A	5.3	36.6	B しっかりと残さず食べられる児童もいるが、食べ物の好き嫌いが激しい児童もおり、個人差が大きい。	学級指導を続けるとともに、学級活動や家庭科などでバランスのよい食事の必要性について指導する。1年生では、10月に栄養士を講師に招いた食育の授業を行った。3学期には、2年生で栄養士を招き、授業を行う。	B	食育を引き続き行ってほしい。保護者への声かけも続けていってほしい。栽培活動や体験活動と結び付けて、食の大切さを教えていってほしい。		学級指導を続けるとともに、学級活動や家庭科などでバランスのよい食事の必要性について指導していく。低学年のうちに、栄養士を講師に招いた食育の授業を行う。また、各学年の栽培活動や5年の米づくり体験などと結び付けながら、食の大切さを実感させる。				
				B	73.7	52.0										
				C	21.1	10.4										
				D	0.0	1.0										
			外遊びを奨励していくことで、子供自身が意欲的に体力づくりに取り組める工夫をする。また、自らの体力や生活習慣に関心をもてるよう指導する。	A	5.3	44.6	B 外遊びを奨励することに加え、休み時間にさまざまな用具を貸し出すことで、より多くの児童が進んで外で遊ぶようになった。寒い時期になると、若干外遊びをする児童が減る傾向にある。	引き続き外遊びを奨励していく。また、なわとび週間、マラソン週間などの期間中や寒い時期には、校内放送で外遊びを促す。	B	教室に残っている子には、引き続き外遊びを促してほしい。			引き続き外遊びを奨励していく。また、なわとび週間、マラソン週間などの期間中や寒い時期には、校内放送で外遊びを促す。			
				B	78.9	50.0										
				C	15.8	5.0										
				D	0.0	0.0										
4 地域と共に	学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	ホームページや学校・学年・学級便りを工夫し、教育活動の様子を家庭・地域によくわかるように適切に伝える。	A	0.0	43.6	B ホームページ、学校、学年・学級便りに関しては、おおむね良いという結果だといえる。ホームページの内容や更新回数に課題があるといえる。	ホームページの内容を見直し更新回数を学期に一度にし、さらに充実させていく。さらにホームページの更新のお知らせをするなど、ホームページの存在をもっとアピールしてほしい。	A	学年便りや学級便りで子供たちの様子を知ることができるので、楽しみにしている。教育活動の様子を知る機会としてメール配信でホームページの更新のお知らせをするなど、ホームページの存在をもっとアピールしてほしい。	ホームページの内容を見直し、更新回数を学期に一度にし、さらに充実させていく。引き続き学校・学年・学級便りとホームページを通して教育活動の様子を伝えていく。					
				B	94.7	48.0										
				C	5.3	7.4										
				D	0.0	0.0										
			地域の教育ボランティアやゲストティーチャーを積極的に取り入れたり、様々な人達と交流ができるようにする。	A	21.4	44.6	B 教職員の間では、活用し切れていないことが分かる。地域の人材の活用について、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に呼べるようにする。	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域の人材リストを更新しつつ活用する。	B	せつかくの人材はぜひ活用できるように工夫してほしい。人材の確保にも努めてほしい。積極的にゲストティーチャーやボランティアを活用するように計画してほしい。ボランティア登録がすすむように人材確保に努めてほしい。		地域の人材の活用について、さらに進められるように人材の整理を進めていく。そのために、今年度の実施報告を取りまとめる。教育ボランティアやゲストティーチャーを必要な時に呼べるように人材の整理を進め、人材リストを更新しつつ、さらに活用を進める。また、吹上の地域の特色を再認識する。				
				B	42.9	48.5										
				C	35.7	5.9										
				D	0.0	0.0										
			特色ある教育活動	小中一貫したカリキュラムのもと、連携教育を展開する。	小中一貫教育の体制をつくり指導の充実を図る。	組織の細分化を図り、さらに連携を深めて小中一貫教育の充実を図る。課題解決に向けて、具体的な取組を実践する。	A	0.0	26.7	C 取組や成果が保護者に伝わりにくい面がある。小中一貫教育について、さらに目に見える活動の形を考えていく必要がある。			ホームページに小中連携のページを新設し、保護者へ小中合同の活動の様子を伝えていく。今後も小中での情報交換を密にし、さらに連携を深めていく。	B	見える活動は伝わりやすいが、活動内容によっては伝わりにくいものがある。さらに、情報が伝わるように情報を発信してほしい。さらに内容を充実させ、小中一貫を図ってほしい。	小中一貫教育の組織を中心として、さらに目に見える活動の形にし、学校便りやホームページ等を活用して保護者へ小中一貫の活動の様子を伝えていく。また、今年度の成果と課題を次年度に引き継ぎ、ランドデザインのさらなる周知徹底を進め、小中の連携を深めていく。
							B	42.1	57.4							
							C	57.9	12.9							
							D	0.0	1.0							
児童が運動に親しみ、体力の向上に努められる組織的な学校体制をつくる。	A	0.0				39.6	B 体育の授業では、意欲的に活動する児童が多い。外遊びなど、運動の日常化にも繋がっていると考えられる。一方で、スポーツテストの結果から全体的に持久力に課題があるといえる。	運動量の豊富な体育授業になるよう努める。また、なわとび週間やマラソン週間の取組を見直し、児童がより積極的に取り組めるような活動にしていく。	B	子供がやる気になる活動を工夫し運動量を増やすようにしてほしい。運動が日常化するように子供たちの運動の様子を称賛し、興味を示したり、頑張りたいと思えるようにしてほしい。	運動量の豊富な体育授業になるよう努めていく。授業や遊びの中で、児童の様子を賞賛したり、児童同士が励まし合ったりすることで、運動への意欲を高められるようにする。また、なわとび週間やマラソン週間の取組を見直し、児童がより積極的に取り組めるような活動にしていく。					
	B	78.9				52.0										
	C	21.1				6.9										
	D	0.0				0.0										